

第24回

武漢熱線

Wu-han Hot Line

Wu-han Hot Line

武漢事務所スタッフ 趙南星

武漢駅と高速鉄道時代

中国の真中にある武漢は、昔から「九省に通じる所」と称えられ交通と物流の要衝として栄えてきました。近代では、京漢線(北京～漢口)、粵漢線(広州～漢口)という南北陸路の合流地として、また、海路や陸路により、東は上海、西は重慶、成都などの主要都市との東西の交流拠点として、重要な位置を占めてきました。さらに高速鉄道時代の到来によりその重要性が増しています。

高速電化鉄道の発展の象徴 武漢駅

現在武漢市には4つの駅がありますが、2009年末に竣工した武漢駅は、高速電化鉄道の発展の象徴とされ、総投資額約2100億円を超えた大型鉄道ターミナルです。武漢駅は長江の南岸、武漢市武昌青山区に位置し、敷地面積110万㎡、使用面積35.5万㎡、そのうち待合室面積は10.7万㎡、プラットフォームの面積は13.4万㎡です。

武漢駅には20線路、11のプラットフォームが備えられ、現段階では73本がここから始発し、うち53本が高速電車で主に広州と上海に向かいます。これからはより多くの高速電車がここから始発、経由する見込みで、武漢駅は今建設中の北京－香港高速鉄道の重要な乗換駅として南北の各省市を繋ぎ、これからも中西部の建設に重要な役割を果たす見込みです。

武漢駅は高架駅で、一階は地面から離れる架空層、二階はプラットフォームで三階は待合室です。同駅は将



武漢駅のプラットフォーム

武漢駅3階待合室

来、年間3100万人、ピーク時には1時間に9300人を運送する見込みです。また、環境に配慮された設計となっており、駅の天井の一部は、太陽光発電のためのソーラーパネルを採用して、駅の照明をおこなっています。

駅前の東広場は長距離バスも含めたバスターミナルになっており、1500台以上の駐車スペースがあります。西広場は市民が休憩できるレジャー施設を建設する予定であり、地下鉄4番、5番線の経由路線にあたるので、地下鉄の乗換駅にもなる予定です。

高速鉄道時代の到来による観光業の変貌

駅の建設と高速鉄道の開通は観光業にも大きな影響を与えました。今年の春節(旧正月)の3日間には、武漢の各名勝である東湖、黄鶴楼、武漢植物園、湖北省博物館などの観光地に10万人余りの観光客が訪れ、その観光客の6割から7割が、武漢－広州高速鉄道を利用した観光客でした。

武漢の旅行社によりますと、今までは武漢から旅行グループを派遣する業務が主でしたが、高速鉄道の開通とともに、このモードが変更しはじめ、春節期間中、武漢の各旅行社が接待した観光客が、派遣する人数を初めて超えました。観光客が殺到したため、武漢の旅行バス、ホテル及びガイドが必要に応じきれないほどでした。



武漢駅外観

武漢駅正面玄関